

徳成農園のこと

桑高同窓会長 西羽 晃

最近、桑名高校西南の交差点に案内板が出来た。そこには「徳成農園跡」も表示されている。私が近所を歩いていると、「徳成農園跡は何処ですか」と聞かれることがある。私の自宅付近が徳成農園のあった場所で、自宅横の小公園に「徳成農園之記」の石碑が建っている。普段見慣れていて、詳しく読んだこともなかったが、近日中に「徳成ウォーク」を実施するので、徳成農園のことを調べてみた。



徳成農園跡を示す案内板



徳成農園之記

このあたり一帯は桑名の町を見下ろす高台である。縄文時代の遺跡もあるが、江戸時代は桑名の町の人たちの行楽地であり、「菜飯・田楽」の店が繁昌した。初春には愛宕山の梅林として賑わった。明治30(1897)年に、近くに諸戸家の墓地が出来てから、その西に諸戸は農園を開いたようだ。諸戸農園に隣接して、貴族院議員の大久保利武(大久保利通の3男)の勧めによって、明治43年に伊藤伝七が「徳成農園」を開いた。

伊藤は四日市の三重紡績の創立者であり、社長であった。桑名にあった桑名紡績が、明治40年に三重紡績に吸収合併されたので、そのころに伊藤は桑名へしばしば来ていたから、徳成の地を知って入手したと思われる。碑文に「農家ノ副業トナルヘキ果樹蔬菜ヲ研究的ニ栽培セリ」とある。広さは2町8反(約28,000㎡)である。そこにカ

キ、ナシ、ウメ、モモ、ミカン、イチゴなどが植えられた。

大正3（1914）年に北勢鉄道（現・三岐鉄道北勢線）が出来たが、馬道駅から西方へ行く道は16世紀には矢田城・愛宕山城の堀割としてあったようだ。徳成農園が出来てから堀割には橋が架けられたと思われる。大正15年には近くに桑名中学（現・桑高）が出来た。馬道駅から徳成農園の堀割を通る生徒も多くいた。昭和14（1939）年には桑名中学の生徒の奉仕によって馬道駅から桑名中学までの通学路が拡張されている。

昭和25年ころ、私が明正中学校に在学中に、写生の時間に堀割と橋をスケッチした覚えがある。桑高へ入学したころも、堀割に橋が架かっていたと思う。そのうちに徳成農園が廃止になり、堀割も無くなって削平された。そこに東洋紡績の社宅が建てられた。東洋紡績の桑名工場も昭和46年に廃止となり、跡地を開発して建売住宅として売り出した。私の会社は東洋紡績へ出入りしていたから、そのニュースを早く知り、建物の図面だけを見て早速に申し込んだ。入居第一号で暫くは近所に誰も住んでいないので、夜は不安であったことを思い出す。

徳成ウォークのご案内 普段は入れない諸戸徳成邸に入れます

日時 平成26年6月8日（日）午前9時 集合場所 桑名駅西口

コース 桑名駅西口—照源寺—円妙寺墓地—大福田寺—桑名神明社—諸戸水道
貯水池遺構—諸戸徳成邸（庭園のみ見学）—長禅寺—徳成農園跡—走井
山勧学寺—北勢線馬道駅解散（正午ころ） 約2km歩きます

参加費 100円（保険代）

注意事項 1. 申し込み なし 2. 小雨実施 3. 虫よけ対策が必要です

桑名歴史案内人による説明があります